

校内研修計画

甲州市立井尻小学校

1 学校課題

- (1) 「確かな学力」を育む授業づくり，授業改善
- (2) 「確かな学力」を支える学級づくり，集団づくり
- (3) 保護者，地域住民等と連携した「確かな学力」の育成

2 研究主題

「思考力・判断力・表現力を育てる指導法の研究」
～ 言語活動の充実を通して ～

3 主題設定の理由

グローバル化する社会を生き抜く子どもに必要な能力や資質が求められる中，現行の学習指導要領では，「生きる力」を育むことが重視されている。「生きる力」の知の側面として「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むとともに，主体的に学習に取り組む態度を養うために，言語活動の充実を図ること」が求められている。それは，児童の問題解決の過程において，考え方を広げたり増やしたりする思考と，考え方を一つに絞り込んでいく思考とをしなやかに働かせるといった問題解決的な思考力を身に付けることでもある。

本校では昨年度までの5年間『意欲的に取り組み，自ら追究する児童の育成』を研究テーマに「話すこと・聞くことの指導」「読む力を伸ばす指導」「子どもたちの学び合い」「思考力・判断力・表現力」に重点を置き，研究に取り組んできた。その結果，児童の話聞く態度，発表への意欲，学び合いの基礎となる友達への思いやり等について変容が見られた。しかし，「確かな学力」につながる「思考力・判断力・表現力」については依然として課題がある。

本年度は，昨年度までの研究成果を生かしつつ，本校の課題解決に向け更に研究を深めていくために「言語活動の充実」に焦点をあてて研究を進める。「言語活動の充実」は，児童に「確かな学力」を育むために必要な，授業改善の重要な手だてであるにとらえ，児童に付けたい力を見極め，その力を育成するために最適の言語活動が何かを明らかにしていきたい。更に，昨年度課題としてあげられた，各教科における「思考・判断・表現」の評価についても，より客観性のある評価規準について研究を深めたい。また，各教科の学習活動を支える豊かな言語環境の整備という点についても明らかにしたい。

4 研究の具体的内容と方法

(1) 研究の具体的内容

- 「言語活動の充実」についての理論研究
 - ・先行研究等からの理論研究
- 検証授業の実施
 - ・研究授業を2回実施する。
 - ・一人一実践
- 学習集団づくり（Q-U調査の効果的な活用）
 - ・K13法による理論研究と結果分析

- ・ Q-U 調査の結果をもとにした取り組みと検証
- 言語環境の整備について
 - ・ 全校の言語環境の整備
 - ・ 図書館の活用
- 保護者との連携について
 - ・ 家庭学習（いじりの子ノート）の指導・学年に応じた学習内容
 - ・ 家庭学習の習慣化と学習内容を高めるための連携の在り方

(2) 研究の方法

- 全体会（理論研究，研究授業，Q-U 調査の分析等）
- ブロック部会（発達段階に応じた言語活動の実践研究等）
- 個人研究（一人一実践）
- 実態調査（各種学力調査・Q-U 調査・学校アンケート調査）

5 年間研修計画

研究主任 中村直人

月	日	担当	研究内容	T C
4	9	全体会	今年度の研究の方向性の検討	
4	16	全体会	研究内容の確認，研究計画の決定	
4	23	全体会	「言語活動の充実」についての理論研究 全国学力・学習状況調査の問題の分析	
5	14	全体会 ブロック	K13法についての理論研究 言語活動についての見直し（全校・授業）	
5	28	全体会	「言語活動の充実」についての理論研究	○
6	11	全体会	Q-U調査結果分析（K13法）と1学期の取り組み 【低学年】	
6	25	全体会	Q-U調査結果分析（K13法）と1学期の取り組み 【高学年】	
8	11	全体会	教育課程の還流報告，各種学力調査（全国学力・学習状況調査，県学力把握調査，NRT）結果の分析と今後の取り組み	
9	3	全体会	Q-U調査をもとにした2学期の取り組み	
9	10	ブロック	授業案作成・言語環境の整備	
9	17	ブロック	授業案作成・言語環境の整備	
10	8	全体会	授業案検討	
10	15	全体会	研究授業	○
10	29	全体会	授業案検討	
11	5	全体会	研究授業	○
12	10	全体会	各学年のQ-U調査の分析と2～3学期の取り組み	
1	28	ブロック	研究のまとめ	
2	25	全体会	研究のまとめ 来年度の方向性	
3	4	全体会	研究紀要作成	